

研修生編集  
僕らが見た鼓童塾

# 非日常へ よらこそっ!!



研修所を舞台に、毎年秋に四泊五日で開催する『鼓童塾』。齊藤栄一塾長のもと、研修生と同じ生活を体験していただきながら、佐渡の豊かな自然の中、そこに集った二〇名の皆さんで、太鼓を叩くことの気持ち良さや、喜びを共有しようという体験塾です。

塾生さんをお迎えするのは二年生で、彼らに課された大命題は食事作りと、それを含め、日頃の茶道のお稽古で培われているはずの「おもてなしの心」の実践です。さて、その実態やいかに…。五日間、おもてなしに徹した研修生が、その振り返りをしている場面を紹介させていただきます。

構成…藤本暢之 題字…上田恵里花

座談会参加者

真…川村真悟、純…池田純、亮…高橋亮、  
久…久保田潤、仁…木下仁資、藤…藤本暢之

【塾生さんが来ると思うと】

藤 では、さつそく鼓童塾の振り返りを。今回は、残念ながらエリカが治療のため帰省していて不在。男ばかりで気の回らないところもいっぱいあったと思うけど、まず、準備段階どうだった？

久 やっぱり、研修所内の大掃除。普段掃除しない場所や色んな所にいつの間にか張り巡らされてるクモの巣取りは、地味に大変だった。

真 でも塾生さんが来ると思うとめっちゃ頑張れる！

藤 ピッカピカにしようと思うよね。

純 僕は料理長だったので、メニュー作りから、量、味付け、盛りつけ方のことなんかで頭

がいっぱい。塾生の皆さんは色々などころから来られるし、年齢も違うからね。旬のものをおいしく、見た目も楽しんで、満足してもらいたいという一心だった。

亮 料理は時間厳守で出さないと次のスケジュールが狂うから、とにかく仕込みを、皆で無駄なく手早く、沢山やった気がする。

藤 頼みのエリカはいなかったけど、だからこそ力を合わせようというチームワークは生まれてたね。

【研修生の役割】

久 せっかく同じ一塾生となったのだから、ここだからこそできる仲間との繋がりを皆さんに感じていただきたかった。

藤 年齢も性別も関係なくそう感じていただけたら本望だね。そのために研修生は何ができるだろう？

真 塾生さんが心から楽しめるように、また、存分に鼓童塾、太鼓、佐渡の自然と向き合えるようにサポートすること。

亮 心をつくしておもてなしをする。  
仁 皆さんが気持ちよく、ワークシヨップや生活ができるように気を配ること。

久 研修生にとっちはいつも通りの「非日常」を皆さんに提供すること。僕たちは、五日間のおもてなしという非日常に一生懸命取り組むこと。

【ご飯美味しかったよ】

藤 実際、どう感じていただけただけかな。塾生さんの反応で嬉しかったことは？



鼓童塾の合い言葉は「熱き思ひ」!

藤 それもこれも塾長あってこそ。塾長の偉大さを実感したと思うけど、その栄一さん

【プロとして：塾長の姿】

純 「ご飯美味しかったよ!」(笑) 失敗もあってダメ出しも受けて、まだまだなところもあったのに。  
亮 あとは、笑顔。  
久 食事や僕たちの稽古の姿が、塾生さんの身や心の「元気の源」になったよ、と言ってもらえたこと。  
仁 稽古は食い入るように見て下さってたね。その分、こつちも気合い入りまくり(笑)。  
真 「皆さん、全員準メンバーになって下さい」と言っていたこと。  
藤 とにかく皆さん、研修生の動きをよく見てくれていて、すぐ手伝いに来てくれたりするのが有り難かった。日毎に皆さんの心が開いて絆が深くなっていくのにも目に見えて嬉しかったな。

から学んだことは?  
亮 人生を熱く生きること! 塾長はとにかく熱いです!!  
久 自分を甘やかさないこと! そこから出てくる言葉はすぐ伝わってくるし、気持ちで負けそうな時でもその人が本来持っている力に問いかけ、奮い立たせることができる方なんだと思う。  
真 太鼓を通して、相手と向き合った時の楽しみ方、楽しませ方が半端じゃない。それから「間」の大切さ!  
純 すぐに状況把握して、その場を展開していくところがすごい。僕たちはまだまだタイミングをはずしてばかり…。

仁 鼓童塾のワークシヨップは数日間続けて行われるけど、塾長は一時も気を抜かず、常に空気を察知して自分からテンションを上げていく…これぞプロ。身も心も最前線に立って、その場をまとめ作り上げていく姿は本当に勉強になった。

【心を感じた塾生さんの音】

藤 さて、鼓童塾を通して何か新しい発見や自分自身に変化はあった?  
純 自分達は本当に応援されているんだという感じがよくわかった。  
仁 そう、応援して下さっているのを肌で感

# 熱き思ひ

じて、今まで以上に夢に真剣になれた。  
真 太鼓に向き合う自分、打つ時の自分が少し変わった気がする。太鼓は相手に聞かせる楽器だけど、塾生さんの太鼓の音で、聞かせるということに捕われ過ぎなくても良い音が出せるんだって気付けたな。  
亮 俺もそう思う。太鼓は技術じゃないって。  
藤 ただ純粹にひたむきに太鼓を叩いている塾生さんの音は、本当に気持ち良くて心に響いてきたよね。  
久 その純粹に楽しんでる塾生さんの姿を見て、俺は自身自身の素直さに向き合うことができたかな。自分の思ったこと、言いたいことを以前より素直に口に出せるようになって、

【熱き思ひ】

藤 じゃあ、最後の質問。あなたにとって「熱き思ひ」とは何ですか?  
真 夢、目標を持っていて、それに向かっている中で、悩んだり、考えたり、感じたりすること。  
久 目の前にある何かに対して、踏み出すこと、とにかくぶつかってみること。  
仁 夢に向かう僕たちを応援して下さい

納得して前に進めるようになった。  
藤 塾生さんはカウンセラーでもあるね。

ようになつて、

いる皆さんの思いを裏切らないこと。  
藤 え? 裏切らない?  
仁 研修所には自分が太鼓をやりたくて来ただけなのに、ここでただ知り合っただけの自分たちを無条件に応援してくれていることが本当に衝撃的。こういう人たちの思いも自分達の背中にあると思うと、裏切れないよなあ…つて。

藤 そうだね。塾生さんを「おもてなし」しているつもりが、逆に塾生さんから沢山の「熱き思ひ」をいただいていた。これはもう、僕たちの一生の心の宝物になったよな。

鼓童塾で繋がった輪は、きつとこの先、縦にも横にもたくさん絆を結んでいくんだと思います。その絆をいつまでも大切にしていきたいです。皆さま、本当にご参加いただきありがとうございます。鼓童塾よ、永遠なれ!



「これ、味無くねえ?」  
「えっ、そんなことないだろ。」  
もう、配膳の時間なんですけど…。